

寶曆式 三月廿五日 同三 酉 九月廿九日

江戶傳信 江戶傳信 江戶傳信 江戶傳信

可止

三冊

090
75

0574
206

寶曆曆三

癸酉年正月三日
...

...

吾民生息之為多。由供...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



中野五人
 白田の物人
 田中五郎
 平川五郎
 長瀬五郎
 河津九郎
 谷五郎
 乃木通作
 山崎五郎
 河津五郎
 山崎五郎
 小野五郎

秋田五郎
 吉田五郎
 白田五郎
 山崎五郎
 田中五郎
 平川五郎
 長瀬五郎
 河津五郎
 谷五郎
 乃木五郎

一 在りしものり物に二口之地は天下の南條村とありしが
 一 大正の年
 一 大正の年
 一 大正の年
 一 大正の年
 一 大正の年
 一 大正の年
 一 大正の年
 一 大正の年
 一 大正の年
 一 大正の年

此の書

八

魯族の事 光

大正

此の書は... 魯族の事... 光

三丁十八日

志士公書判

林 傳公書

一丁十八日... 魯族の事... 光

此の書は... 魯族の事... 光

大正... 魯族の事... 光

一

春五日午時林

春五日午時林

是

一

秋至後樣中何於之三月九日皆出結...

一

月九日... 二月九日... 三月九日...

有... 春五日午時林

春五日午時林

一

春五日午時林

春五日午時林

一

春五日午時林

卷之二
林傳

一正下白... 卷之二... 林傳

卷之二

一正下白...

一正下白...

一正下白...

一正下白...

一正下白...

一正下白...

一正下白...

一正下白...

一丁方院人の巻日記

君子文方
林 傳方

此書長く大なる物語なり其の巻の友
に海客のいふことありて其の物語は
大いに面白きなり

一丁方院

君子文方
林 傳方

此の巻は山田氏の著書なり

二月二十三日書院のりて書院のりて

此の巻は山田氏の著書なり

一丁方院
君子文方
林 傳方

右の巻は山田氏の著書なり其の巻の友
に海客のいふことありて其の物語は
大いに面白きなり

一三日九人のいふことありて其の物語は
大いに面白きなり

此の巻は山田氏の著書なり其の巻の友
に海客のいふことありて其の物語は
大いに面白きなり

此の巻は山田氏の著書なり其の巻の友
に海客のいふことありて其の物語は
大いに面白きなり

二つ方の心三万式りさしと人死なむと一とたきあふ
毎の春日の日は花の心はさしと一と心初めはさしと
心くさるとも下と無き物と心くさしと心初めはさしと
心くさるとも下と無き物と心くさしと心初めはさしと
心くさるとも下と無き物と心くさしと心初めはさしと

一馬具式人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人
今和歌

二つ方の心

一馬具式人

一馬具式人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人

一馬具式人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人

一馬具式人

二つ方の心

林 傳人

一馬具式人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人
一馬具式人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人
一馬具式人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人
一馬具式人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人
一馬具式人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人
一馬具式人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人 善業人

二つ方の心

一馬具式人

一馬具式人

林 傳人

心より物に心多し一有るは

一日無事無事

昔長中書物に依りて今も業に心をもつて書

二一三

玉に依

右に中書物に依りて人教を成し

一七〇〇〇〇〇の如く教へるは其の心なり

光

抄に書物なるは其の心なり

二福新に依りて今も業に心をもつて書

中書物に依りて今も業に心をもつて書

抄に書物なるは其の心なり

抄に書物なるは其の心なり

二月七日

文書に書物

抄に書物なるは其の心なり

抄に書物なるは其の心なり

一日他人の書物に依りて

右に中書物に依りて今も業に心をもつて書

抄に書物なるは其の心なり

抄に書物なるは其の心なり

抄に書物なるは其の心なり

抄に書物なるは其の心なり

一日抄に書物なるは其の心なり

昔の頃の出来事から年々記憶が薄くなっていく
万が一の出来事には必ずしも注意が必要だが
このBismarckもその一環。

書

一書物に於ては一書物に於ては二回以上は読
まねば主として読めず。此れは凡ては皆然し。
二書物に於ては必ずしも二回以上は読
まねば主として読めず。此れは凡ては皆然し。
三書物に於ては必ずしも二回以上は読
まねば主として読めず。此れは凡ては皆然し。
四書物に於ては必ずしも二回以上は読
まねば主として読めず。此れは凡ては皆然し。
五書物に於ては必ずしも二回以上は読
まねば主として読めず。此れは凡ては皆然し。

此の間の出来事から年々記憶が薄くなっていく

昔の頃の出来事から年々記憶が薄くなっていく
万が一の出来事には必ずしも注意が必要だが
このBismarckもその一環。
昔の頃の出来事から年々記憶が薄くなっていく
万が一の出来事には必ずしも注意が必要だが
このBismarckもその一環。
昔の頃の出来事から年々記憶が薄くなっていく
万が一の出来事には必ずしも注意が必要だが
このBismarckもその一環。
昔の頃の出来事から年々記憶が薄くなっていく
万が一の出来事には必ずしも注意が必要だが
このBismarckもその一環。
昔の頃の出来事から年々記憶が薄くなっていく
万が一の出来事には必ずしも注意が必要だが
このBismarckもその一環。

一 右方...
一 右方...
一 右方...

二月

一 右方...

一 右方...

一 右方...

一 右方...

一 右方...

一 右方...

一 右方...

二月

二月

二月

二月

二月

一 右方...

二月

一 右方...

二月

一 右方...

一 右方...

一 右方...

二ノノ

三ノノ

林 傳人

是

一七傳色

豆

傳人

一七傳色

豆

傳人

右ノノ

三ノノ

林 傳人

是

中ノノ

二ノノ

豆

三ノノ

林 傳人

一七ノノ

是

一 廣新

三本

一 武夜

二本

一 寸紙
有抄本... 湯休... 業... 武夜... 寸紙...

三本

二月十日

長...

吉田... 坂...

二十七日...

南... 武夜...

本... 武夜...

二月十日

本...

一 武夜...

本... 武夜... 寸紙...

本... 武夜...

本...

本...

一 武夜... 一 武夜...

一 武夜...

一漢書

一孝廉傳

一合符

右下凡人通人

如

皇

漢

右下七人

人

漢

皇

右下凡人通人

一孝廉傳

漢書

一孝廉傳

一孝廉傳

一孝廉傳

一孝廉傳

一孝廉傳

右下凡人通人

漢

一孝廉傳

漢

右下凡人通人
漢書
皇
漢
右下凡人通人
漢書
皇
漢
右下凡人通人

在石之竹葉

一 卷之二

此竹葉之毒每以竹葉之毒入
他竹葉之竹葉之毒每以竹葉之毒入
竹葉之毒每以竹葉之毒入

此竹葉之毒每以竹葉之毒入

竹葉之毒每以竹葉之毒入

一 此竹葉之毒每以竹葉之毒入

一 此竹葉之毒每以竹葉之毒入

此竹葉之毒每以竹葉之毒入

二 此竹葉之毒每以竹葉之毒入

三 此竹葉之毒每以竹葉之毒入

四 此竹葉之毒每以竹葉之毒入

一 此竹葉之毒每以竹葉之毒入
二 此竹葉之毒每以竹葉之毒入
三 此竹葉之毒每以竹葉之毒入
四 此竹葉之毒每以竹葉之毒入
五 此竹葉之毒每以竹葉之毒入
六 此竹葉之毒每以竹葉之毒入
七 此竹葉之毒每以竹葉之毒入
八 此竹葉之毒每以竹葉之毒入
九 此竹葉之毒每以竹葉之毒入
十 此竹葉之毒每以竹葉之毒入

長
年
定
年

右
左
中
下
上

一
二
三
四
五

中
右

右
左
中
下
上

右
左
中
下
上

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

一 何んぞおれは... (Main body of handwritten text, first section)

一 大いなる... (Main body of handwritten text, second section)

一 着る... (Main body of handwritten text, third section)

女婦... 二一...

林...

...

...

...

一... 一... 一... 一...

...

...

...

...

...

...

...

...

五ノ下ノ為年出ノ...

二一...

多平之文...

右ノ地ノ...

一乃...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 爲 此 國 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也

一 爲 此 國 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也

一 爲 此 國 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也

一 爲 此 國 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也

一 爲 此 國 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也

一 爲 此 國 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也

一 爲 此 國 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也

一 爲 此 國 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也

一 爲 此 國 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也 其 中 之 一 部 分 爲 國 家 之 政 治 體 制 之 一 部 分 也

1. *... ...*

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

此の... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...

一... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...
... 大... 人... 後... 是...

一... 大... 人... 後... 是...

送...

西二月

歳...

一 夜牙

一 遠色信

まろ

歳入

一 一

右抄に於て... 大なる... 存... 色... 信...

西二一

赤本舟り

信一

書判

信... 舟... 色... 信... 舟... 色... 信...

右抄に於て... 大なる... 存... 色... 信... 舟... 色... 信...

赤本舟り

一 所... 書...

一

一 所... 書...

一 所... 書... 舟... 色... 信...

三

林 楊子文也

一

山崎のふりかへりて

三

林 楊子文也

右のふりかへりて

一 山崎のふりかへりて 楊子文也

一 山崎のふりかへりて

三

中 山崎のふりかへりて

右 山崎のふりかへりて

本 山崎のふりかへりて

右 山崎のふりかへりて

山崎のふりかへりて

山崎のふりかへりて

山崎のふりかへりて

山崎のふりかへりて

山崎のふりかへりて

善哉善哉 八國公使の勅諭を以て
右の事は予が心にしる所なり其の如く
在りては予が心にしる所なり其の如く

三十一

若年之文
林 伴公方

一、昨日の事は予が心にしる所なり
大正八年の事は予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり

予が心にしる所なり其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり其の如くは予が心にしる所なり
其の如くは予が心にしる所なり其の如くは予が心にしる所なり

一、昨日の事は予が心にしる所なり

善哉善哉 八國公使の勅諭を以て

右の事は予が心にしる所なり其の如くは予が心にしる所なり

三十一

若年之文
林 伴公方

三友中

比成集

五万五千

右に云々
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一 有 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云

一 有 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云

梅 中 公 孫 之 志 也 矣

一 有 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云

一 有 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云

一 有 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云
其 行 之 口 亦 極 之 云 亦 遊 者 其 行 之 口 亦 極 之 云

梅 中 公 孫 之 志 也 矣



Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the lower middle of the right page.

Handwritten text on the left side of the right page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the lower middle of the left page.

Main body of handwritten text on the left page.

1
Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter.

Handwritten text in cursive script, continuing the flow from the previous line.

Handwritten text in cursive script, appearing as a separate line or section.

Handwritten text in cursive script, occupying the lower half of the page.

中... 卷... 神... 此... 三... 少...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五...

了也中法之... 心... 了也中法之...

了也中法之...

一... 了也中法之... 心... 了也中法之... 心... 了也中法之...

一... 了也中法之... 心... 了也中法之... 心... 了也中法之...

Fragment of a page with a brownish, textured surface, possibly leather or parchment. The surface is heavily damaged, with numerous small holes and tears, particularly along the bottom edge. Faint, illegible markings are visible throughout the fragment.

Fragment of a page with a light-colored, textured surface, possibly paper or parchment. The surface is heavily damaged, with numerous small holes and tears, particularly along the bottom edge. Faint, illegible markings are visible throughout the fragment.

